

「おかれり僕らの海、ありがとう川崎の海」

今年4月、京浜運河に位置する東扇島の広大な敷地に「東扇島東公園」がオープンし、その一角に人工ではあるが川崎市にとっては実に半世紀ぶりという砂浜が復活した。かつて‘大師の海’と親しまれ、日本でも有数の海苔の養殖場でもあった美しい海。

京浜工業地帯の発展にともないその姿を静かに消した川崎の海。
そんな忘れ去られた海が半世紀振りに帰ってきた。そして歌は生まれた。

『50年目の海』

日本の高度成長期を支えてきた名も無き人々の挫折と誇り。
そして今、川崎のみならずその想いは未来の子ども達へと歌い継がれる。
胸を打つ名曲の誕生！！



tvk、ラジオ日本、かわさきFM等の番組で取り上げられ、ON AIR後問い合わせ殺到！
川崎アジア交流音楽祭においても好評を博し、是非CD化を！との声に応え、ついに発売決定！！

2008.7.25. ON SALE

タイトル：『50年目の海』

アーティスト：本名カズト(ほんなかずと)

商品番号：PDR-0003

仕様：12cmCD Album

価格：1,050円（税込）

レーベル：パラダイス本舗

販売元：パラダイス本舗

〒213-0024

川崎市高津区明津146 SPビル3F

tel.044-751-4603/fax.044-751-4693

メールアドレス：information@niginigi.jp

協力：「音楽のまち・かわさき」推進協議会

流通：VIVID SOUND

『50年目の海』は「川崎」を題材にした歌である。

しかし、単なる「ご当地ソング」ではない。そこでは日本人にとっての故郷や家族といった普遍的なテーマを軸に、50年という決して短いとは言えない時間を行き来しながら、世代を越えた様々な「想い」が静かに語られる。その言葉は時に懐かしく時に辛い。もちろん生まれ育った土地や町への「賛歌」であることは間違いないのだけれど、その一方でそれだけでは済ますことの出来ない負の遺産へ対する複雑な思ひが、この歌をより深く魅力的な作品に仕上げている。作詞の江川元三が川崎出身であること、海の無かった時代に少年期を過ごしたこと、工業都市川崎は子供たちの誇りであったこと…。この曲の持つ不思議な説得力はそんな江川の呟くような言葉と、それを受け、よりシンプルにメロディーを紡ぎ歌う本名カズトとの出会いに他ならない。パラダイス本舗第3弾、『50年目の海』。

2008年夏、川崎には海があり、そこには歌がある。